



【社会教育課 主催事業】

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 南予教育を考える集い | [令和元年10月29日(火) 西予市] |
| 2 南予地区人権・同和教育研究協議会 | [令和元年11月21日(木) 大洲市] |
| 3 文化財保護指導員研修会 | [令和元年12月4日(水) 西予市] |
| 4 愛護班活動等リーダー研修会 | [令和元年2月29日(土) 中止] |

【研修会・活動の様子】

1 南予教育を考える集い

11月1日の「えひめ教育の日」に合わせて、家庭・学校・地域住民及び行政関係者等が教育について理解と関心を深め、南予管内教育の充実・発展を図ることを目的に毎年実施しています。今年度は、色彩楽園主宰藤井昌子氏をお迎えし、「災害時の絵による子どものケア～大洲の子どもたちの足あと～」と題して講演会を行いました。西日本豪雨災害後、約7か月にわたって、被災した大洲の子どもたちのために絵を描くことを通した心のケアを行った取組についてお話していただきました。「言葉にならない思いを子どもたちは絵で表す。形にならない、色にならないものを表に出すことで心が落ち着いてくる。はじめのうちは、大人が見ると、意味のないような表現が出てくるが、心の中の重いもの、抱えているものが表現できているしるし。子どもの表現は、全てに意味がある。」というお話が心に残りました。

参加者からは、「絵を描くことで心のケアができることを知った。絵の傾向から、心の状態が分かることを知って、大変勉強になった。」「具体的な事例に基づいた講演でよかった。」という感想が寄せられました。



2 南予地区人権・同和教育研究協議会

「全ての県民が、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を地域課題として受け止め、地域ぐるみの人権・同和教育を推進していくための道筋を明らかにする。」という目的で開催されており、南予管内を中心に 623 名の参加がありました。

今年度は、新たな取組として、就学前から取り組む部落解消に向けた教職員研修と保護者啓発に焦点を当てた研修があり、保育関係者・保護者が研修を深めることができました。小学校・中学校・高等学校では、それぞれ公開授業、実践報告が行われました。社会教育部会では、ハンセン病問題、障害者支援、子ども会活動などの各地での実践について報告がありました。すべての部会で、研究協議では、グループ協議を取り入れ、受け身の研修ではなく、グループのリーダーを中心に活発な話し合いが行われました。

「差別の現実」に学び、地域課題である人権問題に対して主体的に取り組むための考えを深める 1 日となりました。



3 南予管内文化財保護指導員等研修会

南予管内の文化財、史跡等について調査見学し、文化財の見方や保護、活用について研修を深めるとともに、文化財保護指導員と行政担当者の情報交換、相互の交流を図ることを目的に行われました。今回は、西予市立明浜公民館を会場に、平成31年に文化庁の重要文化的景観に選定された「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」について現地研修を行いました。この選定制度は、普段の生活をしていると気づきにくい、地域風土によって形成された景観の文化的な価値を正しく評価し、次世代に継承しようとするものです。

一時は小雨もばらつきましたが、ボランティアガイドの方の説明を伺いながら、約1時間のフィールドワークを行いました。続いて、明浜公民館では、県文化財保護課、宇和島市、松野町、西予市の重要文化的景観に関わる取組についての報告、質疑を行いました。

四国地方に10カ所選定されている重要文化的景観のうち、愛媛県にある3カ所が南予地域にあります。南予の人々の生活が作り出した文化的景観の重要性を再確認することができる有意義な研修会となりました。

